

7月成田用水(辺田・中郷)拡大着工 資材輸送道路・機動隊宿舎建設...

許すな動労千葉 七月三里塚「国鉄決」戦で中曽根打倒へ

85. 7. 9

No. 1984

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

八五年夏から来春にいたる三里塚二期をめぐる情勢は、反動中曽根の「総決算」攻撃―戦争国家体制づくりとの最大の決戦を迎えている。七月一日、中曽根・運輸省は、二期工事で予定されるB・C滑走路周辺の騒音区域の指定と年度内防音工事着手を発表、マスコミに「二期本格着工の手続が整った」と書かせるなど、今秋着工への決意をあらわにしている。七月成田用水の辺田、中郷地区への拡大着工、二期資材輸送道路、警備用機動隊宿舎建設、そして今秋の東峰十字路裁判反動判決策動とあわせ、まさに夏―秋にかけて最大、最高の正念場がおとずれようとしている。労農連帯の矜持にかけ、二期着工阻止、「総決算」攻撃粉碎・中曽根打倒へ総力で決起しよう。

中曽根の「総決算」プラン打ち砕け！

反動中曽根は、今年度中曽根政権の死活のかけた「総決算」の正念場とすえている。商業新開に「百貫目の石が七つも八つも転がっているみたいだ」「息が抜けない」と剣ヶ峰に立つ自からの心情を吐露している。

中曽根の「総決算」プランは、59中業の策定（大軍拡）、臨教審答申（教育反動）、七月再建監理委答申（国鉄労働運動解体）、国家秘密保護法継続審議（一切の権利の否定）、靖国神社法案上程（天皇制の復活）等、この夏から秋にかけて超反動攻撃をしかけ、労働者人民の総屈服をせまら、そのうえで秋から来春にかけ、三里塚二期本格着工をもつてすべての反中曽根、戦争反対勢力をほうむりさるうというものである。

さらに、日米欧の経済対立の突破―帝国主義としての生きのこりかけ、来年五月東京サミットを開催、衆議院解散、六月衆・参ダブル選挙、中曽根三選をもつて日本を戦争のできる国家に完全につくりかえる。すなわち「戦後政治の総決算」を完遂せんとしているのである。

われわれがはつきり見すえなければならぬことは、中曽根のプランは、内政的にも外交的にも余裕のないギリギリのプランであるということである。

従って、この一つでも崩すことができるならば必ず中曽根をほうむり去ることができるということである。その突破口こそ、国鉄であり、何よりも三里塚である。

二期阻止―成田用水強行粉碎！

三里塚は、われわれ労働者・人民にとっても中曽根にとっても正念場を迎えている。

反対同盟の不屈の闘いに追いつめられた中曽根

・運輸省は、六月六日の衆院交通安全対策特別委で、ここしばらくの「二期は話し合いで」というペテンの方針をかなぐりすて「力づくで二期強行」という方針へ基本的に舞いもどることを明らかにした。

こうした中で七月一日、二期騒音地域の指定・着工が発表されたが、これと並び、空港周辺対策Ⅱ反対同盟孤立・分断攻撃の焦点となつてのが成田用水の七月中における辺田・中郷地区への拡大攻撃である。

「成田用水は営農のため」と言うが、実は二期賛成の見返りであり、菱田地区住民を反対同盟から脱落させるためのものである。

そもそも政府・公団すら「菱田地区は、空港が完成すれば騒音直下となり、人は住めなくなる」と成田用水の対象外にしていたのである。それを七八年急拠対象区域に指定したことを見れば明らかである。

しかも当該地区では六〇％しか用水工事に賛成していないにもかかわらず、これを機動隊の力でねじふせ強行せんとしているのである。こんな反対同盟破壊攻撃を絶対に許してはならない。

東峰十字路裁判三君を守りぬけ！

こうした攻撃とともにわれわれが絶対許せないのは、東峰十字路裁判におけるデッチ上げ重罪求刑、今秋の反動判決策動である。全く無実の同盟員をただ「今もそこに住み空港に反対している」ことをもつて十年の刑に処そうというこの超反動こそ中曽根政治そのものである。

三君を守りぬき、成田用水強行阻止・反対同盟解体攻撃粉碎・二期強行阻止をかけ闘いぬくところこそ中曽根の「総決算」攻撃に勝利する道である。正念場を迎えた国鉄・三里塚を突破口に中曽根打倒へ起ちあがろう。